金沢市立病院　地域連携室通信

スクラム

Vol.69

2022.4

《 救急医療の充実に向けて 》

救急室長　　小林　大祐

この4月から金沢市立病院救急室長として赴任してまいりました小林大祐と申します。2002年から4年間、当院循環器内科で勤務しており、16年ぶりに戻ってまいりました。前任地は富山県立中央病院で集中治療室に勤務しておりました。救急室長として、少しでもより良い結果がもたらされるよう、力を尽くす所存です。

さて、現在の医療に多大なる影響を及ぼしているのが新型コロナウイルスです。この世界的な災厄に見舞われ数年が経過しましたが、その間新型コロナウイルスが変異を繰り返すたびに、症状の様相が変化しました。重症化することが多かったデルタ株、感染力が増したオミクロン株など、それに伴い提供する医療資源にも変化の波が押し寄せました。初期のマスク供給不足と価格上昇、その後の価格崩壊。コロナワクチンの不足と世界各国の争奪戦。コロナ患者用ベッド数の不足とホテル療養の開始、そして自宅待機と突然死。検査キット不足とみなし陽性。保健所の仕事内容も変化しました。医療崩壊といわれ、命の選別と報道されたこともありました。それからみますと、現状ではどなたであっても等しく医療を提供できているようですが、クラスターの発生を防ぐため、入院される際はPCR検査を全例実施しています。これから先もウイルスに変化が生じ、それに応じた対応が必要になるかと思われます。柔軟性をもちながら、いかに標準的な医療の提供を継続できるかが問われています。

当院は、主に金沢市南部エリアをカバーする病院として救急患者の受け入れを行っておりますが、金沢市の病院として、金沢市消防局と連携し、広く患者を受け入れております。断らない救急を目標とし、新型コロナ患者を含め、あまねく患者を受け入れる病院の最前線における勤務に、身が引き締まる思いです。なお、少なくとも一年間は循環器医師としても勤務します。循環器診療時は救急室での初療のみならず、急性心筋梗塞患者のカテーテル治療などにも携わってまいりますので、併せてよろしくお願い申し上げます。

All Rights Reserved Copyright 2022 Kanazawa Municipal Hospital

《 当院における急性虫垂炎に対する治療戦略の変化
～ 腹腔鏡下手術の導入と待機的虫垂切除術について ～ 》

外 科 長　　曽我　真伍

急性虫垂炎は、外科で扱う急性腹症の中でも胆嚢炎と並んで最も頻度の高い疾患です。急性疾患であり、新型コロナウイルス感染による昨今の受診控えの中でも虫垂炎の手術件数は感染拡大以前と比較して変わりはありません。

当院では、2019年までは急性虫垂炎と診断した時点で可及的早期に通常開腹による緊急手術を行ってきましたが、2020年の4月より腹腔鏡下虫垂切除術を新たに導入しました。腹腔鏡下手術は従来の開腹手術と比べて、創部感染や合併症の発生率・在院日数を低下させ、早期社会復帰をもたらすことから、2020年に改訂されたエルサレムガイドラインでは、虫垂炎に対する外科手術の第一選択として推奨されています。腹腔鏡下虫垂切除術は通常3カ所の創で行う術式が一般的ですが、症例によっては臍部の1カ所の創で行い、整容性に優れる単孔式手術が可能な場合もあります。

腹腔鏡下手術の導入とともに、急性虫垂炎に対する治療戦略にも、急性期の炎症を鎮静化し2～3か月程度の間隔をおいて虫垂切除を行う待機的手術（IA；interval　appendectomy）を積極的に取り入れるようになりました。元々は小児の急性虫垂炎に対して適応が始まり、近年成人でも特に膿瘍形成性虫垂炎や腫瘤形成性虫垂炎などのいわゆる複雑性虫垂炎において、回盲部切除など手術の拡大を回避し合併症を軽減することから、その有用性が報告されるようになりました。待機的に手術を行う場合は炎症性の癒着も予想されるため、基本的には腹腔鏡下手術（LIA；laparoscopic　interval appendectomy）で行っております。単純性虫垂炎に対しても、総入院期間の延長となりうるため議論の余地はありますが、合併症発生率の低下や医療環境的側面からもその恩恵が大きいと考え、LIAを施行しております。問題点として、初期の保存的加療に奏功せず準緊急手術を要する場合があることや、待機期間の間に虫垂炎が再燃する可能性もありますので、LIAを行うまでの期間も慎重な観察を行うことが求められます。

当科では急性虫垂炎に限らず様々な外科的急性腹症に関して最新の知見を考慮しながら、患者様に対してより良い治療をご提供できるよう努力して参ります。かかりつけの先生方におかれましては、患者様をご紹介いただけますようよろしくお願い申し上げます。

All Rights Reserved Copyright 2022 Kanazawa Municipal Hospital

《新任医師紹介》 ～８名の医師が着任しました～

救急室長・内科
こばやし　だいすけ
小林　大祐
[得意分野]
循環器
集中治療

当院は、勤務経験のある病院の中でも最も呼ばれる病院で、以前と変わらずさっそく休日もないほど呼ばれ、家族一同、呼出の着信音に震え上がっております。
今回は救急医療の充実が求められており、少しでもご期待に沿えればと思います。

腎臓・ﾘｳﾏﾁ科
とよた　よしただ
豊田　善真
[得意分野]
腎臓病
膠原病一般

患者様それぞれに親身に寄り添い、適切な医療を提供し、地域医療に貢献したいと思います。

内分泌・糖尿病内科
よろいだか　あやか
鎧高　彩夏
[得意分野]
糖尿病
甲状腺疾患

金沢医療センターから異動して参りました。
糖尿病教育入院を通して、地域の皆様のお役に立てればと思っています。
糖尿病の合併症評価や、患者教育が必要な方がおられましたら、お気軽にご紹介ください。

消化器内科医長
はやかわ　のぞむ
早川　希
[得意分野]
消化器一般

恵寿総合病院より異動となりました。
卒業８年目となります。
地域の方々のお役に立てるよう精一杯がんばりますのでよろしくお願いします。

消化器内科
いながき　しんご
稲垣　慎吾
[得意分野]
消化器一般

金沢有松病院から異動となりました。
地域の方々のお役に立てるよう精一杯頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

外科医長
やまむら　こうぜん
山村　浩然
[得意分野]
一般外科
消化器外科
消化器内視鏡検査

2004年から2年間当院勤務歴があります。
今や外科の手術は鏡視下手術が一般的となり、以前にも増して「チーム医療」としての性格を帯びてきているように感じます。他のスタッフとともに、"チーム医療の外科"に貢献したいと思います。

整形外科医長
あんねん りょうへい
安念　遼平
[得意分野]
脊椎脊髄

整形外科一般を診察しますが、脊椎脊髄分野を専門的に診ることができます。
丁寧な診察を心がけていますので、ぜひご相談ください。

泌尿器科医長
いいじま　まさし
飯島　将司
[得意分野]
男性不妊症

全国的にもまだ少ない男性不妊症の専門医として、これまで金沢大学附属病院で市内の専門施設と連携して診療を行ってきました。
どうぞよろしくお願いいたします。

《臨床研修医紹介》

○櫻井 佑基（さくらい ゆうき）
「駆け出しの未熟者ですが、１年間頑張ります。よろしくお願いいたします。」

○中村 幸太郎（なかむら こうたろう）
「多くの手技を経験したいです。よろしくお願いいたします。」

All Rights Reserved Copyright 2022 Kanazawa Municipal Hospital

《 副院長新体制について 》

前副院長の退職にともない、新たに２名の副院長が就任いたしました。髙田病院事業管理者、松下院長のもと、杉山副院長と3人体制で病院運営に尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

神経内科
杉山科長

新 小児科
瀬野科長

新 整形外科
森川科長

《 地域連携室職員紹介 》

地域連携室は、腎臓・リウマチ科 高桑科長を室長、循環器内科 村井科長および坂本副看護部長を副室長とし、医師、看護師、社会福祉士、事務職員と多職種で日々業務にあたっています。今年度新しいメンバーが加わり、より一層の関係機関との連携強化に努めてまいります。

紹介患者さんの受診や開放病床の利用、当院へのご要望など、何でもお気軽に地域連携室にお問い合わせください。なお、入院患者さんの入退院支援につきましては、入退院支援室が担当いたします。

地域連携室 ・ 入院センター

（後列左より）前田社会福祉士、敷戸事務員、宇梶事務員、
山田事務員、平林看護師、埴生副看護師長
（前列左より）坂本副室長、高桑室長、村井副室長、谷口看護師長

入退院支援室

（後列左より）濵崎社会福祉士、當間看護師、安島看護師、
山本看護師、山田看護師長
（前列左より）橋浦社会福祉士、佐藤社会福祉士、坂本室長、
廣田看護師

金沢市立病院 地域連携室
〒921-8105 金沢市平和町3丁目7番3号
TEL:245-2626（直通） FAX:245-2693（直通）
http://kanazawa-municipal-hosp.com/

All Rights Reserved Copyright 2022 Kanazawa Municipal Hospital